

【映像資料プログラム】

「みんな、版画家だった!？」

戦後版画運動の起源と成り立ち

丸川 哲史

本企画は、和泉図書館ギャラリーにて、二〇二三年の一月一五日より一月二〇日まで行われました。

今回の展示においてまず、東京美術学校で西洋画を学んだ山本鼎がヨーロッパ留学の帰路に立ち寄ったロシアでの児童創造絵画に触れ、帰国した後「自由画教育」や「農民芸術」を始めたことが、日本における版画運動の起点となること——このことが紹介されました。つまりこの芸術運動の流れは、各人の個性を活かし創造力をはぐくむことで、芸術の担い手としての民衆を育てようとした大正期に花開く事跡であり、これが後の日本の戦後

版画運動、教育版画運動にも繋がるわけです。またその次に本企画の一つの目玉となるのが、日中の版画運動の連関です。戦前において中国（上海）に進出した内山書店は、前述した日本の大正期からの芸術運動、特に版画を一つの文化資源として持っていました。その内山書店と中国知識人によって版画運動が戦前の中国（上海から）に拡大していく端緒になりました。こういった部分の紹介と解説をしてくださったのが、高円寺でギャラリーを経営されてもいらっしやる、ご自身も芸術家であります、上岡誠二氏でした。

また今回の展示の別の協力関係として、町田市立国際版画美術館所蔵の資料と、同美術館学芸係の町村遥香氏からの資料の提供を得ることとなりました。内容として、まず映像資料『楽しい版画』（一九五五年 第一映画社）の映像とナレーションが終始、エンドレスにてギャラリー内で上映されることとなりました。その映像は実に、一九五〇年代からの教育現場における集団的な創作の熱気が伝わって来る温かい内容でした。この部分など、観客としてギャラリーに来ていただいた年上の方々にととっては記憶の底にあったものようです。その他また町村氏からの提供として、青森県五所川原小学校の一五三名による集団創作版画の作品『五所川原』が展示されました。それは共同体（村）に降りかかる水害や飢饉、火事などを彫刻刀で彫り描いた巻物仕立ての作品ですが、非常に見ごたえあるものでした。その他、同上版画美術館からの提供では、中国での近代版画の受容を跡付ける雑誌や挿絵、また戦争期、日本の秋田県花岡で起こった中国人労働者による蜂起を描いた版画集『花岡惨案』（李平凡 一九五六年）などの展示もありました。またそのような版画運動は、日中とともに、識字運動（生活つづり方運動）とも結びついていた事実であり、そのことも

資料から窺い知れるような展示をしていただきました。

そして丸川からは、主に戦後の日本の版画運動と抗日期の中国の版画運動との関連を紹介しました。すなわち上記からの流れとして、一九三〇年代前半、中国文学の父魯迅が上海内山書店の内山嘉吉と版画講習会を開いたことが一つの起点となる事績です。そこで学んだ弟子たち（孫弟子たち）が抗日期を通じて版画を制作し続け、また巡回方式で展覧会を行いました。例えば、彦函の作品「女性たちを隠す（把她們隱藏起来）」（一九四四年）は、日本の侵略戦争が庶民を巻き込んだ事情が伺えます。すなわち、日本軍の襲来に備えて、堅穴に女性を隠すシーンを版画作品にしたものでした。こういった抗日期の版画が戦後日本の一時期、大きく受容されていました。今日では信じられないことですが、中国抗日版画がデパートも含む日本各地で紹介されていたのです。

ここで一つ忘れてならないのは、ドイツの女性芸術家として歴史上の農民運動を描き、反戦と平和を主張した、ケート・コルヴィッツの存在です。ケートの諸作品に触れ、魯迅は大きな衝撃を受けました。魯迅はケートに手紙を書き、中国への招聘を懇願するほどでした。このような流れが版画講習会や抗日版画に繋がって行くの

です。ちなみに、ケーテの作品は多く日本にも伝わっており、深い影響を与えています。版画家として平和運動を牽引した両雄、上野誠、鈴木賢二などはよく知られた存在です。両者の作品「原水爆戦の防止を訴える原爆症患者」(一九五五年 上野)と「署名」(一九六〇年 鈴木)も、本企画において展示しました。さらに言いますと、『カムイ伝』などを描いた著名な漫画家、白土三平の作風にもケーテの影響を見ることができなのです(この事跡を物語る資料も展示しました)。

さて、ちなみにケーテの作品を(中国よりも)多く収蔵しているのが、沖繩の嘉手納基地に隣接する佐喜眞美術館であることは大和側ではまだあまり知られていない事実です。佐喜眞美術館は、六十点以上のケーテの作品を所蔵し、反基地運動とリンクした活動を続けています。またちなみに佐喜眞美術館は過去、北京や上海の美術館にケーテの作品を貸出す活動も行っています。つまり、東アジアにおける版画運動の連鎖は、今も現に、東アジア内部で現に展開されているのですが、実はドイツの反戦・平和の芸術ともリンクして成立していることになるのです。

以上、展示の内容を大まかに記しました。終了した後

の観客からの反応もとてもよく、感想ノートにも多くの肯定的なコメントが残されました。

みんな、版画家だった!?

民衆版画簡史  
生活つづり方と生活版画  
折本版画絵巻 五所川原

中国における未刻版画運動  
戦後版画と社会/平和運動  
中国未刻関連資料、戦後版画運動関連資料

11月15日(水)~11月20日(月)  
明治大学和泉キャンパス 和泉図書館 1Fキオスク  
主催 明治大学大学院教授デザイン研究所  
\*入場無料 どなたでも参加可能

連絡先 明治大学大学院教養デザイン研究所  
E-mail: humanity@nics.meiji.ac.jp TEL: 03-6300-1529